



# レディース通信 第14号

2016. 2. 4 東洋レディース in 静岡



新しい年が始まりました。今年はどのような年になるでしょうか？



羽生飾り 2009. 1. 5

2015. 10. 4



2015年10月4日(日)  
第10回レディース in 静岡の集い  
クーポール(静岡市)

出席者(8名)

(後列左より) 大嶽登茂子、鈴木伸子  
谷口智子、阿早田和子

(前列左より) 川島洵子、大澤友子  
川野辺一江、富坂涼子



Q: 最近、感動したこと。現在続けているスポーツや趣味等、何でも結構ですからお書きください。

♥阿早田和子 (H. 10 通国文)

—東京博物館の庭園内にある茶室でお茶が飲めたことです。—

その1. 九条館 これは京都御所内の九条家の館にあったものが東京に移築されたそうです。今日に至っては東京博物館の西門から入った庭園に他の茶室と共にその由緒を物語っています。  
その2. 応挙館 壁面の絵はレプリカではあるがその前に坐って食べた点心はおいしかったです。

♥大嶽登茂子 (S. 57 法律)

農作業をしながらとりとめもなくいろいろなことが頭に浮かぶ。先日思ったこと。

昔ばなしで、「おじいさんは山へしばかりに、おばさんは川へ洗濯に」とある。

子供の頃、「しば」は「芝」だと思っていた。それしか私の世界にはなかったからなのだが……。大人になってからは芝でないとは思っていたが深く考えることもなく過ごしていた。

諸姉妹には笑われてしまうがお付き合い願いたい。

「芝」ではなく「柴」であろう。なぜなら、おばあさんの洗濯という日常の仕事に対して、おじいさんも日常の仕事であるはずだからだ。昔々に山にゴルフ場があり、芝刈り職人としておじいさんが働きに行ったとは考えられない。また、芝が山に生えていたとして、それを何に使うのか？火おこしに毎日それほどの量は必要ないし、畑に撒く肥料にするのか？どちらもそれならわざわざ山など行かずともその辺の草で充分だ。

柴という木は実がたくさんなり、我が山も少しほっておくと、どんどん増えてなかなか厄介な木であるが、簡単に大木になるわけでもなく、ポキポキと折ったり切ったりするのは楽な木である。

おじいさんは山へ行って柴をポキポキと刈って、何日前に刈ったときぎ用に山で乾かしたものや、風で折れて枯れた枝を拾い、常緑で目出度い木なので、新しく刈った木は神社や寺に供えたかもしれない。「柴」だけでなく同じような小さい雑木を「柴」と言ったのだろう。

と、「柴」は油がある木なのか？葉は艶々としているが……。ポケットからスマホを取り出して調べて驚いた。「柴」とは山の小さな雑木のこと、では私が「柴」と思っている木は何という名前なのか？「ヒサカキ」であった。なるほど、字は多分、軸に非ずで非軸か、小さいから姫軸、軸の代用品であるということであろうと推測するとその通りであった。

「おじいさんは山へ柴刈りに」と、子供の頃から当然知っていた方々には何とも馬鹿な話であるが、

おばあさんになった今頃、柴とは雑木のことだろうと推測して、自分が柴と思っていたものがヒサカキであったと知るのもまた楽しである。

そして、私の頭の中は、おじいさんの朝一番の仕事は山で柴刈りだけれど、そのあとはおばあさんと畑仕事をしたんだろうとか、昔断のおじいさんとおばあさんは大概なぜ子供がいないんだろうとか、とりとめもない。



#### —デイサービス施設での出会い—

♥川島洵子(S. 38 英米文)

退職後 20 年余り特養老人ホームでボランティア活動をしてきましたが、本年度は別のデイサービス施設に出向いています。

初めて伺った6月に、玄関先で「川島先生じゃないですか？私A子です。30年ぶりくらいになりますよね。ここで介護士をしています。」と声をかけられましたが、誰なのか分かりませんでした。名乗られて、ああ、かすかに中学時代の面影が残っ

ているなーと思いながら、それにしても年をとって容貌も変わっている私がよくわかったものだ聞いてみると、「先生変わっていない。すぐ分かりましたよ。」とお世辞混じりに答えてくれました。

彼女も結婚して姓が変わっていましたが、訪問する度ににこやかに働いている姿を見てホッとしています。

先月は、当地遠州地方の方言をまじえて新美南吉の「ゴン狐」の紙芝居をしてきました。次回は「かちかち山」の予定です。毎回4人ぐらいで昔の小学唱歌やじゃんけんゲーム、フラダンス（お年寄りが椅子に座ったままで上半身や手が動かせるので）など内容を考えながら活動しています。

もう一つの出会いは、98歳になる元教員だったIさんとの出会いです。Iさんは週に3日デイサービスを受けに通っています。背筋をしゃんと伸ばしてご自分の足で歩かれ、とても礼儀正しく、私達が帰る時には必ず控室まで来てにこやかに挨拶され、ご自分で折った折り紙を下さったり、逆に励まされたりしています。私達が訪問するのを楽しみ待っていてくれるので、彼女が施設にいる曜日に伺っています。Iさんからいっぱい元気をもらっている今日この頃です。



#### —10年以上続けている太極拳—

♥鈴木伸子(S. 45 短英語)

太極拳をはじめたきっかけは老人会の転倒防止の講座です。はじめは老人が多かったのですが、ついていけないといって残ったのは若い人達だけでした。

現在は10人位で週1回やっています。お蔭様で今のところ転ぶことはありません。



#### —出逢いに感謝しています—

♥宮坂涼子(S. 45 法律)

第10回東洋レディースin静岡の集いもH. 27. 10. 4(日)ケーポール会館で開催されましたが、心のかよう良き和の会でした。役員の皆様を始め土台づくりにご尽力くださいました皆様にも感謝の良き一日でした。ありがとう御座居ました。

♥川野辺一江(S. 43 建築)

4月に胃癌の手術をしました。自宅に戻り、5月、6月と静養してそろそろ、これまでと同じ生活に戻ろうとしていた7月にキャスター付きの椅子に浅く腰掛けていて滑り落ちて尻餅をついてしまいました。腰の痛みで起き上がることが出来ず70歳になって初めて救急車のお世話になり市立病院に再入院しました。救急隊の方々、医療スタッフの皆さまに感謝しています。

救急車に初めて乗った、その時の様子を書き記した「初体験」が平成27年度の「県民文芸」(第55集)に入選しました。(平成28年2月発刊予定)

また、実家の父の生涯を記した「群馬の田舎教師」が平成27年度「静岡市民文芸」第十一号の評論・ノンフィクション部門の「市長賞」を受賞しました。(平成28年4月上旬より発売予定)

27年度は私にとって感慨深い年となりました。

レディースの集いの感想

♥谷口智子(S. 48 国文)

“東洋レディースの集い”に、以前、一度出席しましたが、その後、いろいろと忙しさに紛れ欠席しておりました。今回、久しぶりに参加させていただきました。代表はじめ皆様が温かく迎えてくださり、食事をしながらの、楽しい懇談でした。ご自分の健康に関する率直なお話や、いろいろ勉強になるお話等、アツという間の数時間でした。

ありがとうございました。

まだ参加されていらっしゃる方は、有意義な情報交換の場であり、楽しい集いですので、気軽に足を、お運びください。(平成27年12月記)



代表報告

♥大澤友子(S. 47 国文)

H27.4.1~8.15 レディースアンケート実施

H27.5. 24 第2回女性連絡会総会出席  
・会長は、南方真理さんから沖山英子さん(城東支部)に交替しました。

H27. 7.19 県支部総会出席  
・校友会県支部規約に「東洋レディース in 静岡」の条項が

H27.10. 4

載ることになりました。  
東洋レディース in 静岡の集いを開催

H27.12. 30

富士山女子駅伝応援・取材  
・今回は途中、繰り上げスタートもあり、前回の着順(15位)を超えることはできませんでした(18位)が、次回の出場を期待しましょう。



富士山女子駅伝の出場選手と応援の皆さん



pixta.jp - 4652915 pixta.jp - 4652915

趣味その一 園芸

♥阿早田和子(H10 通国文)

40数年間我が家の庭の草取り、木の枝切り、植樹種蒔き…と自分の手に叶った事は何でも一生懸命に行なってきた。これも趣味の一つだこの頃では思っている。苗木を植えた日はいつであったか遠に忘れた。私の背丈程の柚子の木に昨年初めて、あたりにさわやかな香りが漂う程の白い小さな花を咲かせ、その花が散ると何だろうか?と思う程の小さな緑色の粒を付けていた。化成肥料を根元にまいて毎日のようにみていると、梅雨明けの頃には指先くらいの大きさに成り、柚子の実であることが素人の私にもわかる程に成長した。

初秋には青い柚子の皮をへぎ取り吸い物の具にすると一躍、吸い物が和風料理へと変身した。晩秋には見た目に美しい黄金色となった。

年を越した今はホットはちみつゆずとして舌を楽しませている。



## 私のイタリア滞在記

♥谷口智子 (S. 48 国文)

娘が、オペラ歌手としてイタリアに留学し、その後、イタリアの男性と結婚。子供も誕生し、ローマで家庭を持っている。今年7月の一カ月間、娘夫婦・孫と生活をするため、イタリアに滞在した。2才になる孫は、かわいい、活発な男の子だ。私達にもすぐ慣れて、ノンナ（おばあちゃん）・ノンニ（おじいちゃん）と呼んで、後を追いかけて来る。私達と話す時は日本語で、パパと話す時はイタリア語で話している。こんなに小さくても二カ国語を自由に使っている。すごい。驚きだ。

孫は、私と散歩がてら公園に行くことが、大好きで、出かけると、なかなか帰りたがらず、困った。孫の大好きな“森のクマさん”を歌って帰った。

楽しい日々の中で、「これはまいったな」ということを挙げてみる。夕食時間が遅いことだ。一般家庭でも、8時、9時である。友人宅に夕食を招待される場合も、8時過ぎからのお出掛け。食事は9時すぎからである。レストランもそうである。夕食は9時頃から始まり、10時・11時頃賑やかになってくる。招待されて出掛けると、帰るのは夜中の12時である。日本との夕食時間の差には困った。私達、老夫婦には、体も大変である。ああ、だから、こちらの人は、昼になると店を閉めて家に帰り、ゆっくり昼食をして、お昼寝をするんだなど、納得した。買い物は午前中にすませる。午後1時から大部分の店がシャッターを閉める。そして、夕方の4時頃から、またオープンする。結局、自宅での夕食は娘夫婦と相談して早めにした。

食事の違いもある。朝はコーヒーにパン、サラダに果物。スパゲティは、具やスープは変わるが毎日食べる。さすが、本場だ。とてもおいしい。あと、肉料理もおいしい。野菜は、日本の方が種類が豊富だ。イタリアは大根、ゴボウ、レンコン等の根野菜が少ない、日本料理の、バラエティーにとんだ、繊細な味が懐かしかった。

た。娘と相談して、婿のいない昼食は、日本食にした。ご飯にみそ汁にのり等。粗食でも、なぜかホッとして、おいしい。イタリアでは毎食後、ドルチェやジェラードを食べる。おいしいから、ついつい一緒に食べてしまうが、きっと糖分の取り過ぎだろうと、血糖値が気になってくる。

イタリアの良い点は、ものを大事にすることだ。家具や食器など、古い時代のものをもとても大切に、使っている。日常生活の中で、沢山の歴史的な文化財に触れている。絵画などは素晴らしい。美術館や古い教会に足を運ぶことも楽しかった。

また、男性達は、家族・家庭をととても大事にしている。一家の中ではマンマ（お母さん）が一番大切にされている。婿は、私にととても気を配ってくれ、優しくかった。居心地が良い。威張っている日本の男性（我が夫）とは大違い。これは、私の夫だけかな？

娘は、声楽を勉強してきて、オペラ歌手としてイタリアの舞台をふんでいるが、イタリア人はオペラが大好きである。生活の中にオペラが息づいている。夏には、1800年前にローマ皇帝カラカラによって造られた、ローマのカラカラ浴場の遺跡あとに、大きな舞台が造られ、毎夜オペラが上演されている。夜9時から始まり、真夜中まで続く。毎夜、超満員だ。私達も娘夫婦と一緒に、オペラを聴きに行き、楽しんだ。

バカンスに出掛けたシチリア島での十日間。あの美しい海の風景は忘れられない。朝に夕に海で泳いだ。いや、海辺で遊び、海につかっていたと表現したほうが、あまり泳げない私には、正しい。

楽しい一カ月間だった。

イタリア在住の時は婿の影響でレディーファーストだった夫も、日本に戻ってくれば、亭主関白に逆もどり。出掛ける前の日常生活にもどった。どちらの国の暮らしにも、一長一短があり、それなりのポリシーがある。

イタリアも日本も平和であり、住む人々が幸せであることを心から祈る日々である。

(平成27年12月記)



## お寺に遊びに行った

♥ 阿早田和子 (H. 10 通国文)

新東名高速道路の富士 IC から夫の運転する車で走行すること約二時間。引佐 JCT に着いた。この町の寺、深奥山・東隠院にお伺いする為、境内にある駐車場に到着した時には、和尚様と友人達が既にみかん狩りの準備をすませて待っていて下さった。和尚様は東洋大学名誉教授で校友会会員でいらっしゃる宮田先生なのだ。

小高い丘の上の果樹園には和尚様が丹精して育てたであろう柑橘類と甘柿が沢山植樹されていた。この場所でのぎやかに楽しく、たくさんのお土産とみかんを取らせて頂いた。さらに真新しい本堂にてお茶のおもてなしを受けた。御本尊においとまをして、本堂の裏山への道へ出てみると、その一角にも富有柿がたわわに実っていた。黄柚子も生っていた。ほた木にはしいたけが栽培されていた。

富有柿を取る人、柚子を取る人、しいたけを取る人、大勢で沢山収穫をさせていただいた。この大木の果樹を見上げて思ったことは、これらを受け継ぎ、丹精し続けて来たこの寺の歴史だった。

ありがとうという感謝の言葉しかないけれど、心が癒されるお寺だった。



## 東洋レディース in 静岡次期代表 (2016. 4. 1 ~ 2019. 3. 31)

次期代表には落合雅子さん (S. 55 短日文) が就任していただきます。

「レディース通信」の編集担当は鈴木伸子さんが引き受けてくださいました。よろしくお願い致します。

## 代表挨拶

♥ 大澤友子 (S. 47 国文)

平成25年度より3年間、「東洋レディース in 静岡」の代表を務めさせていただきました。皆様の御協力に感謝申し上げます。毎年、活動費が削減されて苦しいなか、現金、切手の御寄附をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 編集後記

♥ 川野辺一江 (S. 43 建築)

大澤代表のもとで3年間「東洋レディース in 静岡」のレディース通信の編集を手伝わせて頂いて幸せでした。

私は長年、群馬県に住んでいました。大学の校友会も群馬支部に入っていました。9年前、静岡に転居してすぐに「東洋レディース in 静岡」のお仲間に入れていただき本当に良かったと思います。

東洋大学の創設者・井上円了先生の「諸学の基礎は哲学にあり」という教育理念を毎日の生活や講座を受ける時、ボランティア活動の際、実感しています。

